

# 平成 23 年度「教職課程担当教員養成プログラム」

## 教育・研究活動報告

塩津 英樹 (島根大学)

牧 貴愛 (広島大学)

広島大学大学院教育学研究科教育人間科学専攻(博士課程後期)は、平成 19 年 9 月から平成 22 年 3 月にかけて、「Ed.D 型大学院プログラムの開発と実践～教職課程担当教員の組織的養成～」(平成 19 年度文部科学省大学院教育改革支援プログラム)に取り組んだ。同プログラムでは、①確かな研究力に加え、大学教育において実践的な指導力を発揮できる人材、②高等教育を含む教育臨床に的確に対応できる人材、の育成が目指された。同プログラムは、将来、教職課程を担当する大学教員、すなわち「先生の先生」を組織的に養成しようとするものであり、これまで研究者養成に特化してきた大学院教育の在り方を見直すものでもあった。3 年間にわたる活動を通して、4 名の博士課程後期院生(第 1 期生)が同プログラムを修了した。

平成 22 年 3 月に同プログラムが終了した後、これまでの 3 年間にわたる活動を更に発展させる形で引き継いだのがここに報告する「教職課程担当教員養成プログラム」(以下、「教職 P」と略記)である。新たな名称とともに開始された「教職 P」は、平成 22 年 4 月より活動を開始し、現在 2 年目を迎えている。平成 23 年度「教職 P」の受講者は 8 名(博士課程後期院生)である。博士課程後期 1 年次生(3 名)は、前後学期を通じて、2 つの授業(「教員養成学講究」と「大学教授学講究」)を履修し、大学教員に求められる基礎的な知識を習得した。博士課程後期 2 年次生(2 名)は、学内(広島大学)で前学期・後学期各 1 回、計 2 回の教壇実習に取り組み、博士課程後期 3 年次生(3 名)は、学外(他大学)において教壇実習に取り組んだ。学内外における教壇実習の概要は、次表の通りである。

表 平成23年度 学内外における教壇実習

時期	実施先	実施科目	実習生(学年)
6月27日(月)	高松大学・高松短期大学	教育制度論	小早川 倫美(D3)
7月11日(月)	広島大学	教職入門	尾川 満宏(D2)
		教職入門	森下 真実(D2)
7月12日(火)	広島文化学園大学	保育内容(人間関係論)	杉田 浩崇(D3)
10月24日(月)	比治山大学・比治山大学短期大学部	保育原理	熊井 将太(D3)
1月24日(火)	広島大学	教育社会学	尾川 満宏(D2)
1月31日(火)		教育経営学	森下 真実(D2)

2011 年 11 月 20 日(日)、「教職 P」は、中国四国教育学会第 63 回大会(於 広島大学大学院教育学研究科)においてラウンドテーブル「これからの大学教員養成の話をしよう」を企画した。同ラウンドテーブルでは、「教職 P」の受講者 4 名(司会者を含む)が取組内容を踏まえて「教育(教職教育)」と「研究(教育学研究)」の関係についての分析・考察結果について報告を行い、修了生(1 名)が「教職 P」の成果と課題について報告した。また、報告内容に関して、受講者 4 名、内部評価者の丸山恭司氏(広島大学大学院教育学研究科)、外部評価者の広田照幸氏(日本大学文理学部)との間で、活発な議論が重ねられ、改めて、授業もできる研究者養成の重要性が確認された。

平成 23 年度は、本プログラムの総仕上げ的科目である「教職教育ポートフォリオ」を D3 の 3 名が履修・単位を修得し、第二期生が誕生した。

末筆ながら今年度「教職 P」の世話人として、運営に携わって下さった教職員ならびに受講者である院生諸氏の協力に感謝するとともに、今後も「教職 P」の取り組みが、革新的な大学院教育の一つのモデルとして継続・発展していくことを祈念する。